

神奈川県立茅ヶ崎高等学校

授業の実施概要

日時	2023年1月13日	時間	60分	授業者	教諭、がん経験者
人数	33人	場所	会議室	構成	知識+経験談+Q&A
対象	1~3年生(定時制)	科目	総合的な探究の時間	講師	可知茉莉江(P.18)

授業のねらい

卒業後の生活において、自分の健康を守って生きていくために必要な知識と意識を身に付ける。



経験談

万が一がんになってしまった時、恐れずに適切な治療を受け、自分らしく毎日を過ごしていくように経験から学んだことを伝える。

授業の流れ



授業で工夫されていた点

- 事前打ち合わせ・学校見学による、授業のねらいに沿った内容の組み立て
 - ・知識編:「がんの説明」にとどまらない、現在・卒業後の生徒の生活を意識
 - ・経験談:がんに限らず、他の病気を含めて将来困難に直面した場合を想定
- 健康について自分事として捉えられるような仕掛け作り
 - ・実物を活用した説明(例:使用していたウィッグを被って登壇、ビール缶を用いた適切なアルコール量の紹介等)
 - ・事前アンケートで生徒から寄せられた質問には、話の中やQ&Aでほぼすべてに回答

三浦学苑高等学校

授業の実施概要

日時	2022年12月7日	時間	75分	授業者	がん経験者(患者、患者家族)
人数	408人	場所	メインアリーナ	構成	知識+経験談+Q&A
対象	1年生	科目	学校行事	講師	前野純子、多和田奈津子、橋本利栄子(P.25, 22, 23)

授業のねらい

がんをリアルに捉えられるとともに、病気の子が身近にいる時に、周りの子はどう寄り添うかを自分事として考えられる。



経験談

がんを漠然としたイメージで怖がるのではなく、がん経験者や家族の話から、がんを自分事として感じ、寄り添い方を考える。

授業の流れ



授業で工夫されていた点

- 学校の要望を受けて、具体化できるよう県がん連で授業構成を提案し、学校と共に作りあげた。
 - ・知識編:ただ怖がるのではなく正しく理解し、自分のこととして捉えられるようにした。
 - ・経験談1:16歳当時の学校での友だちや先生との関わりの経験談を増やし、より身近に感じてもらうようにした。
 - ・経験談2:がん患者家族が、患者を支えながら自らの痛みや苦しみにどう乗り越えようとしたかを伝え、家族全員の問題として、自分ならどうするかを考えた。
 - ・Q&A:講演者3人からがん患者や家族の思いを声にして伝えた。

生徒の声(一例)

- ・詳しく説いてもらえると、共感できて病気が身近な問題として考えられた。
- ・がんになると不自由な生活を強いられることになると思っていたが、治療を受けながらでも普段のような生活を送れるのではと、希望を持てた。
- ・私の中で、重い病気だと思っていたが、誰かに相談することで、心も軽くなることが分かった。
- ・講義によって、バランスの取れた食事や運動を行うなど健康に気を付けようと意識が変わった。
- ・とても勉強になったし、自分でなく他人にも教えてあげたい。

生徒の声(一例)

- ・がんになっても強い気持ちと勇気を持つことによって、生きていけることを学んだ。また、自立というものは自分で生きていくことではなく、周りの人に助けを求められることだということを学んだ。
- ・友だちや家族ががんになったとしても変に気遣うことはしないようにしたいなと思った。
- ・実際に体験した方から話を聞くのは、授業などで聞くよりリアル感が増すし、がんになってどういう考えなのか知れて、もし身近にがんになってしまった人がいたらどういう対応をすべきか考えて行動できるようになった気がする。